

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 27 年 6 月 25 日現在

機関番号：14601

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24531130

研究課題名(和文)ESDを目指す高等学校芸術科音楽の鑑賞教育カリキュラムと実践事例の開発

研究課題名(英文)Music Appreciation Education Curriculum and Implementation Plan through ESD

研究代表者

宮下 俊也(MIYASHITA, TOSHIYA)

奈良教育大学・教育学研究科(研究院)・教授

研究者番号：50314521

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：高等学校芸術科音楽の鑑賞領域において、ESD(持続可能な開発のための教育)の実現を目指すカリキュラムと具体的な実践事例を開発した。その結果として『ESDとしての音楽鑑賞授業 実践ガイドブック』(全175ページ)を発刊した。本書は以下の内容で構成されている。  
第1章：ESDの概念と、21世紀の教育・音楽教育においてESDを推進していくことの意義。第2章：中学校音楽・高等学校芸術科音楽における「ESDとしての音楽鑑賞指導ガイド」。第3章：高等学校芸術科音楽におけるESDとしての鑑賞授業実践事例集。第4章：ESDとして音楽鑑賞教育についてまとめた学術論文。

研究成果の概要(英文)：This study proposes the development of a specific plan for instruction through ESD (Education for Sustainable Development) for implementing music appreciation education in order to foster human resources for the 21st century.  
As a result, I published "The Guidbook for Music Appreciation Education ESD "(all page 175) .

研究分野：音楽教育学

キーワード：ESD 音楽科教育 音楽鑑賞

## 1. 研究開始当初の背景

以下の3点が研究の背景であった。

(1) 世界及び文部科学省が、これからの学校教育において ESD (Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育) を求めている点。

(2) 音楽科、特に高等学校芸術科音楽の鑑賞領域で、ESD の実践が見られないこと。

(3) すでに開発した「ガイドブック(中学校編)」を、高等学校へ接続させ、深化させる必要性と可能性が認められる点。

## 2. 研究の目的

「高等学校芸術科音楽」の鑑賞領域において、ESD の実現を目指すカリキュラムと具体的な実践事例を開発し、実践のための事例集となる「ガイドブック」を作成して教育現場に提供することを目的とする。「ガイドブック」には、ESD の概念と、ESD としての音楽鑑賞教育で育成する能力・態度を示し、それに基づく実践事例を収める。

## 3. 研究の方法

次の手順で遂行した。

(1) ESD の概念と先行研究を検討し、合わせて「21 世紀型能力」「21 世紀型スキル」「ソウル・アジェンダ」といった今後の教育に求める日本、及び世界における資質・能力を踏まえて、21 世紀の音楽教育において ESD を推進していくことの意義を明確化した。

(2) 中学校、及び高等学校芸術科音楽の現行学習指導要領で示された指導内容のすべてに対する「ESD として獲得を期待する力」を明確化した。

(3) 具体的実践として「思考」に焦点をあて、「ESD として獲得を期待する力」を求めていく際に取り入れる「思考のテーマ」を検討した。

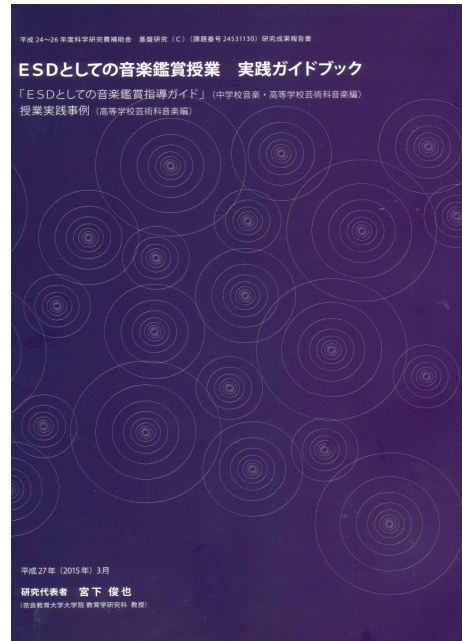
(4) 以上を一覧にまとめ、「ESD としての音楽鑑賞ガイド」の表を完成させた。

(5) 「ESD としての音楽鑑賞ガイド」に基づき、高等学校芸術科音楽における ESD としての鑑賞事例を開発した。

(6) 研究期間中に公表した学術論文を加えてガイドブック『ESD としての音楽鑑賞授業』を完成させた。

## 4. 研究成果

以下、『ガイドブック』(全 175 頁)の内容に即し、研究成果を示す。



ガイドブック『ESD としての音楽鑑賞授業』

(1) 第1章「ESD の概念と、21 世紀の教育・音楽教育において ESD を推進していくことの意義」

ここでは、以下のことを明らかにした。

ESD の概念と ESD で育成する能力・態度  
今後の世界における芸術教育の方向性を示した「ソウル・アジェンダ」と米国カリキュラム

今後の日本において育成する資質・能力  
音楽教育を ESD として推進していくことの意義

については、ESD における政策的経緯を中心に検討した。また日本における ESD として、国立教育政策研究所教育課程研究センター(2012)「学校における持続可能な発展のための教育(ESD)に関する研究」〔最終報告書〕を中心に検討した。その結果、音楽鑑賞教育に関わる概念として、「社会的寛容」「公正で平和な社会」「人間の尊重」「将来世代への責任」「文化的な多様性の尊重」、関連するキーワードとして、「相互関連」「多様性」「多面性」「将来像」「意思決定」「市民性」「寛容行動」「変容」「共存共栄」「連携」「協働」「調和」「平和」を抽出できた。

また、ESD で重視する能力・態度として音楽鑑賞教育に関わるものとして、「代替案の思考力」「コミュニケーション能力」「多様性や非排他性などの尊重」「自分で感じ・考える力」「問題の本質を見抜く力」「望む社会を思い描く力」「自ら実践する力」「協力して進める力」「多様な価値観を尊重する力」「将来を予測・計画する力」「感覚的な反応を発達させる力」「質・量・価値を区別する力」等を抽出した。

については、「ソウル・アジェンダ」と ESD との接点を見出した。その結果、ゴール3「芸

術教育の原理と実践を、今日の世界が直面している社会的・文化的な課題解決に貢献するために適用する」とその下位項目を導いた。米国カリキュラムでは、「National Core Art Standards」の「Anchor Standards」の7、8、9、11がESDと深い関係にあることを見出した。

については、第2期教育振興計画（閣議決定）及び文部科学省（2014）「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会 - 論点整理 - 」より、国立研究所（2013）が示した「21世紀型能力」の「実践力」における「社会参画力」「持続可能な未来への責任」について論及した。

については、第1章の総括として、以下のように『ガイドブック』に記した。

「音楽教育は、我が国、及び諸外国の様々な音楽を学習素材として扱い、音楽表現・鑑賞の直接経験を通して、多種多様な音の組合せによる音楽の構造を捉えるとともに、音楽の美しさなどの質感を感性を働かせて認識する力を高めていくことができるものです。こうした力の育成は、美的情操の涵養に資することはもとより、例えば、自分、及び日本人としてのアイデンティティを確立するとともに、自分とは異なる歴史的・文化的背景をもつ音楽の価値などを尊重できる態度を養うことにもつながっていくものです。これは文化理解の視点です。

また、音楽から喚起される感情やイメージ、それらの変化を意識し、さらに他者の感情などにも共感してコミュニケーションを図りながら相互理解を深めていくことは、音楽の学習活動ならではの特性です。したがって、音楽の学習活動は、自己理解力や他者理解力、コミュニケーション力、ひいては人間関係形成力などを高めていくことにつながります。これは関係性やつながりの視点です。

さらに、批評の対象となる音楽について、まずはその特徴やよさなどを理解できるように努め、他者が表現しようとする内容を受けとめて、共感したり自らの考え（感じ方や解釈など）の深化に生かしたりする鑑賞の学習活動は、生涯において多種多様な音楽と出会うとき、様々な音楽の特徴やよさなどに興味をもち、それらを理解しようとする態度をもつことができるようにしていくことによって、個人の成長と多様性を尊重できる社会人の育成に資するものと言えます。これは鑑賞教育の視点です。

(2) 第2章 「中学校音楽・高等学校芸術科音楽における『ESDとしての音楽鑑賞指導ガイド』」

ここでは、以下のことを明らかにした。

鑑賞領域の指導内容とESDの関係

ESDとしての鑑賞教育で獲得を期待する力

実践の方法として思考を取り入れる意義  
思考のテーマ例

評価の在り方

ESDとしての鑑賞教育の構造

「ESDとしての音楽鑑賞指導ガイド」

では、まず学習指導要領及びその解説より、鑑賞領域の指導内容を抽出した。次にそれら一つ一つについて、第1章で明らかにしたESDとして求める能力・態度との関連を検討した。

では、の検討を受けて、各指導内容における「ESDとして獲得を期待する力」を具体的に示した。その結果は以下の通り。

<b>音楽の素材としての音</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分で感じ、考える力</li> <li>・感覚的な反応を発達させる力</li> <li>・(音楽)文化の多様性を理解し、尊重する態度</li> <li>・音環境を保全していく態度</li> </ul>
<b>音楽の構造</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽をはじめとする芸術作品などの抽象的な事物を客観的知覚と感受の両側面から認識できる力</li> <li>・事物や事象を客観と主観によって捉え、考える力</li> <li>・音楽をはじめとする芸術作品などの抽象的な事物を、部分と全体の両側面から認識できる力</li> <li>・事物や事象を多面的・総合的に捉え、考える力</li> </ul>
<b>音楽によって喚起されるイメージや感情</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・(音楽)文化の多様性を理解し、尊重する態度</li> <li>・イメージをもって新たなもの、社会、時代をつくり出していくことの実践力</li> <li>・自己のイメージや感情を他者に伝え、他者のそれを受け止めて互いに協動的なコミュニケーションを図れる力</li> </ul>
<b>音楽の鑑賞における批評</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や芸術の本質（自分や社会にとっての価値）を積極的に考え、見抜き、その結果を語り合える力</li> <li>・音楽や芸術を含む様々な文化の創造と持続発展のために、的確な批評ができる力</li> <li>・社会に存在する事物や事象の価値を的確に判断し、建設的に主張できる力</li> </ul>
<b>音楽の背景となる風土や文化・歴史など</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分と音楽、人間と音楽との関わりに関心をもち、音楽文化を尊重する態度</li> <li>・音楽を「ピースメイキング」として捉え、音楽が自分の生活や社会の健全化に貢献できることを理解し、そのために行動できる力</li> <li>・社会に存在する事物や事象の背景を洞察できる力</li> <li>・総合芸術の多様性を理解し、尊重する態度</li> <li>・過去に築かれた音楽文化や伝統を尊重</li> </ul>

<p>し、その持続発展に貢献しようとする力</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自他国の音楽文化を理解し合うために交流できる力</li> <li>・過去と現代を融合させて新たなモノやコトを生み出そうとする発想</li> </ul>
<p><b>音楽を共有する方法</b></p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自他国の音楽文化を理解し、互いの文化の価値などを尊重し合いながら交流できる力</li> <li>・抽象化されたシンボルから具体、背景を想像する力</li> </ul>

では、「ESDとして獲得を期待する力」を求めていく場合、「思考」が有力であることを、ドイツベルリン州の音楽カリキュラムから導いた。

では、その具体的な思考のテーマを検討し、開発した。各指導内容に対して開発した思考のテーマ例は以下の通り。

<p><b>音楽の素材としての音</b></p>
<p>「全ての感覚を働かせて、ものをよく見、聴き、味わい、触り、嗅いでみて新たに発見したこと、その時に感じたことを述べ合ってみましょう。」</p> <p>「美しいと感じた音楽や芸術について、感じた美しさの要因は、その作品の素材にあるのか、また素材の関わり方にあるのか等、話し合ってみましょう。」</p> <p>「直感的に『事物や事象の質感を感じ取る』ということが、人として生きていく上でどのような役割を果たすのか考え、意見を述べ合ってみましょう。」</p> <p>「同じ食べ物の匂いでも、国や地域によって好みが全く異なることがあります。『声についての美意識』もそうなのでしょうか。そうだとしたら、なぜ異なるのか考えてみましょう。」</p> <p>日本の伝統音楽の声と、西洋のクラシック音楽の声楽曲とを、音響の面で比較し、うたわれる場（目的や場所など）との関わりを考え、意見を述べ合ってみましょう。」</p> <p>「『歌は世につれ世は歌につれ』といいますが、声や歌い方に注目して過去や現代の日本の歌を聴き、時代によって変化している点や普遍的な点を見つけ出し、社会との関わりという点で意見を述べ合ってみましょう。」</p> <p>「韓国語、中国語、ポルトガル語、スペイン語、フィリピン語、インドネシア語、タイ語、ベトナム語の音声を、音色や抑揚、リズム感に注目して聴き比べてみましょう。そしてそれぞれの違いを述べ合ってみましょう。」</p> <p>原語と邦訳された外国歌曲を聴き比べ、言葉・音・音響の関係を考え、述べ合ってみましょう。」</p> <p>「世界の諸民族の楽器を1つ取り上げ、</p>

<p>その地域の自然や風土などから、その楽器の音がそこで暮らす人々に好まれる理由を考え、発表してみましょう。」</p> <p>「人間はなぜ楽器をつくり出し、楽器を使って表現するのか、その意味について、楽器の材質や音色を視点に考え、意見を述べ合ってみましょう。」</p> <p>「日本人が大切にしてきた音や音環境を調べてみましょう。そしてなぜ大切にしてきたのかを考え、これからも音環境を保全するために、私たちができることは何かを話し合ってみましょう。」</p>
---

<p><b>音楽の構造</b></p>
<p>「最近『美しい』と感じたモノやコトを取り上げ、なぜ『美しい』と感じたのか、その理由を述べ合ってみましょう。」</p> <p>「『客観』と『主観』という語の意味を調べ、身の回りにあるものを1つ選び、それについて客観と主観によって捉えた結果を語り合ってみましょう。」</p> <p>「アインシュタイン、コッホ、グラシヨウ、小柴昌俊など、一流の科学者で音楽を愛好している人が多いのはなぜなのか、話し合ってみましょう。」</p> <p>「印象派の音楽と、印象派の絵画に共通するところはどこかを見つけ出し、発表してみましょう。」</p> <p>「いろいろなパーツが組み合わさって美しさを生み出しているモノやコトを探してみましょう。そしてどのような組み合わせられ方に美しさを感じたのか、発表してみましょう。」</p> <p>「『木を見て森を見ず』という比喻は、一般的にどのような時に使われるのでしょうか。音楽や芸術を鑑賞する時に『木を見て森を見ず』とはどういう意味になるのか、例を挙げながら意見を述べ合ってみましょう。」</p>

<p><b>音楽によって喚起されるイメージや感情</b></p>
<p>「いろいろな国の代表的な音楽を聴いて、表情や雰囲気を感じ取りましょう。そして、音楽の特徴について、その国に対するイメージなどに関わらせて考え、話し合ってみましょう。」</p> <p>「いろいろな国の音楽を鑑賞し、それぞれの曲想を味わい、曲想を生み出している要素や構造の特徴と、その国の風土や文化、生活との関わりなどを考え、音楽の多様性について話し合ってみましょう。」</p> <p>「人によって感じ方が大きく異なると思われる芸術作品を探し、皆に提示して感じたことを尋ね、その感想を共感的に受け止めて言葉で返してみましょう。」</p> <p>⑳ 「イマジネーションとインプレッションの違いは何だろう？音楽を鑑賞するときにあてはめて考えてみましょう。」</p>

②② 「イメージするということは、人間にとってどのような意味や重要性があるのかを考え、意見を述べ合ってみましょう。」

#### 音楽の鑑賞における批評

②③ 「音楽から感じ取ったことを言葉で表現する時、比喩が多く用いられることを経験してきましたが、評論家の音楽批評を読み、比喩の効果を考え、話し合ってみましょう。」

②④ 「ベートーヴェンの『運命』が200年以上も演奏されている理由を考えてみましょう。また、最近生まれたJ-POPがこの先200年以上演奏され続けるかどうか、それぞれの音楽を批評しながら考え、発表してみましょう。」

②⑤ 「友人や家族が好きな芸術作品を発表し、その作品を皆で鑑賞しながら、どのような価値を見出しているか話し合ってみましょう。」

②⑥ 「私たちが音楽や芸術を鑑賞することに役割があるとしたらそれは何でしょうか。話し合ってみましょう。」

②⑦ 「鑑賞した音楽に対して自分が判断した価値は、自分のこれまでのどのような経験から判断したものか考え、述べ合ってみましょう。」

②⑧ 「『審美眼』『鑑識眼』という言葉の意味を調べてみましょう。音楽を鑑賞することによって『審美眼』や『鑑識眼』が育つとしたら、鑑賞をするときに、どのようなことを大切にするとよいか話し合ってみましょう。」

#### 音楽の背景となる風土や文化・歴史など

②⑨ 「人はなぜ表現するのかを考え、話し合ってみましょう。」

②⑩ 「心が傷ついた人々に勇気を与える音楽は、どのような要素によってつくられた音楽か、自分の経験をもとに、音楽を聴いて確かめながら考え、話し合ってみましょう。」

②⑪ 「知らない曲を皆で聴き、その作曲者の性格、育った環境、趣味などを想像し、理由とともに述べ合ってみましょう。」

②⑫ 「世界で起こっている紛争や戦争をなくすために、音楽や芸術が果たせることを考え、話し合ってみましょう。」

②⑬ 「音楽が社会に果たす役割は何か、話し合ってみましょう。」

②⑭ 「いつの時代、どこの国に生まれたとしても、音楽や芸術が人々に幸せをもたらすことができるとしたら、そのために、今の自分たちには何ができるだろうか、話し合ってみましょう。」

②⑮ 「小・中・高等学校の音楽の授業で、音楽を鑑賞して学んだことを振り返り、今後、自分なりに新たな価値を見出すなど、創造的に生きるために役立つと思われることはどのようなことか

を考え、述べ合ってみましょう。」

③⑥ 「異なる文化を取り入れて新たな文化となった例を探し、発表してみましょう。」

③⑦ 「異なる何かと何かを融合させて、新たなモノやコトを創り出すことができないか、身の回りを見渡しながら考え、意見を出し合ってみましょう。」

③⑧ 「長い歴史をもつ奈良市大柳生町の『太鼓踊り』を鑑賞し、毎年行われていた『太鼓踊り』が休止となった理由を考えてみましょう。」

③⑨ 「伝統文化を継承・存続させるために、あなたや地域の人々ができることは何かを考え、話し合ってみましょう。」

③⑩ 「身の回りに伝統の継承と創造的に発展した例があるか意見を出し合ってみましょう。また、それらが人々にとってどのような意味があるか考えてみましょう。」

③⑪ 「伝統と現代を融合させて、新たなモノやコトを創り出すことができないか、身の回りを見渡しながら考え、意見を出し合ってみましょう。」

#### 音楽を共有する方法

④② 「語学を学ぶことと楽譜が読めるようになることとに共通することは何か、考えてみましょう。」

④③ 「写真を見ることと地図を見ること、演奏を聴くことと楽譜を見ること、の両方を通して育つ人間の能力は何かを考え、話し合ってみましょう。」

④④ 「作曲家が楽譜に書いた記号や用語から、作曲者のメッセージを想像してみましょう。同じように、作者が記号やシンボルなどを用いて受け取り側に何かを伝えようとしている例を探し、述べ合ってみましょう。」

では、「ESDとして獲得を期待する力」に対する評価の在り方について検討した。方法として矢口（2010）が論じる「バックキャスト方式」に一定の意義を見出せたが、具体的なルーブリック等の開発には至らず、今後の課題となった。

では、「ESDとしての鑑賞教育の構造」を図示し、従前における鑑賞指導ではESDは教師の中に潜在していたが無意識であったことに対し、今後は指導内容に即し、顕在化・明確し意識することによってESDが実現できることを示した。特に音楽科の指導内容に即すことは、道徳や総合的な学習との差異を明確化させる上で極めて重要であることを論じた。

では、本章の総括として、指導内容、ねらい、「ESDとして獲得を期待する力」、「思考させるテーマ例」を一覧にまとめ、「ESDとしての音楽鑑賞指導ガイド」（中学校音楽・高等学校芸術科音楽編）として表で示した。

(3) 第3章 「高等学校芸術科音楽におけるESDとしての鑑賞授業事例集」

この章では、第2章で作成した「ESDとしての音楽鑑賞指導ガイド」に基づく授業プランを開発した。その14事例の題材名を以下に示す。

〔事例1〕直感で音楽を捉える - 未知なる音との出会い -

〔事例2〕「うたのおねえさん」 - 今と昔 -

〔事例3〕楽器の壮大な世界！

〔事例4〕音楽を愛好する理由

〔事例5〕全体と部分

〔事例6〕音楽文化の発信・伝播・多様性

〔事例7〕イメージすることの意味 - ドビュッシーの作品を通して -

〔事例8〕音楽自分史を作ろう

〔事例9〕音楽が社会に果たす役割は何だろう？

〔事例10〕音楽が伝えてくれるもの

〔事例11〕人間と音楽との関わり - 「祈りの音楽」を通して -

〔事例12〕文楽の三業一体から日本人の感性を考える

〔事例13〕日本の伝統をつたえる - 京鹿子娘道成寺に見る日本の音楽文化 -

〔事例14〕楽譜から作曲者のメッセージを読み解く - 聴き味わうこととともに -

(4) 第4章 「ESDとしての音楽鑑賞教育についてまとめた学術論文」

この章には、研究期間中に公表した、以下の2つの学術論文を掲載した。

宮下俊也・大熊信彦(2013)「ESD(持続発展教育)としての音楽科教育 - 中学校鑑賞領域の場合 -」『奈良教育大学研究紀要』, 第62巻, 第1号, pp.207-218

宮下俊也・大熊信彦・多賀秀紀(2015)「ESDとしての音楽鑑賞教育 - 指導内容と対応させた授業プランの開発と実践 -」『学校教育実践研究』, 日本学校音楽教育実践学会, Vol.19, pp. 39-50

<引用文献>

矢口克也、「持続可能な発展」理念の実践過程と到達点、持続可能な社会の構築 総合調査報告書、国立国会図書館調査及び立法考査局、2010、35-37

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計10件)

宮下俊也・大熊信彦・多賀秀紀(2015)「ESDとしての音楽鑑賞教育 - 指導内容と対応させた授業プランの開発と実践 -」『学校教育実践研究』, 日本学校音楽教育実践学会, Vol.19, pp. 39-50 (査読有)

大熊信彦(2014)「子どもたちが『学校で

音楽を学ぶことの大切さ』を実感できる授業」『季刊音楽鑑賞教育』, 第17刊, 公益財団法人音楽鑑賞振興財団, pp.54-57 (査読無)

宮下俊也(2014)「音楽を学ぶことの意味 - ESDとして鑑賞指導が目指すもの -」『学校教育』, 広島大学附属小学校学校教育研究会, No.1158, pp.12-17 (査読無)

宮下俊也・大熊信彦(2013)「ESD(持続発展教育)としての音楽科教育 - 中学校鑑賞領域の場合 -」『奈良教育大学研究紀要』, 第62巻, 第1号, pp.207-218 (査読有)

〔学会発表〕(計3件)

宮下俊也・大熊信彦・多賀秀紀、「持続可能な社会創造に貢献する能力育成のための音楽鑑賞授業実践」, 日本学校音楽教育実践学会、2014、8.17、熊本大学

大熊信彦・宮下俊也、「ESD(持続発展教育)としての音楽鑑賞教育 - 高等学校芸術科音楽において -」, 日本学校音楽教育実践学会、2013、8.18、お茶の水女子大学

宮下俊也、「ESD(持続発展教育)としての音楽鑑賞教育の可能性」, 2012.8.18、鳴門教育大学

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

取得状況(計0件)

6. 研究組織

(1)研究代表者

宮下 俊也 (MIYASHITA, Toshiya)  
奈良教育大学・教育学研究科・教授  
研究者番号：50314521

(2)研究分担者

大熊 信彦 (OKUMA, Nobuhiko)(平成24-25年度)  
国立教育政策研究所・研究開発部・教育課程調査官  
研究者番号：2037083

臼井 学 (USUI, Manabu)(平成26年度)  
国立教育政策研究所・研究開発部・教育課程調査官  
研究者番号：00739427